

兵庫県立大学・宮城大学合同シンポジウムの開催について

震災復興を考える ～阪神・淡路大震災と東日本大震災～

兵庫県立大学では、東日本大震災の被災地支援の取り組みの一つとして、公立大学法人宮城大学と協働して学生ボランティア活動を行っています。

こうした両大学の連携に基づき、このたび、両大学の学生から、ボランティア活動の中で感じ、考えたことの発表や、被災経験を有する自治体職員からみた東日本大震災の災害対応や阪神・淡路大震災を経験し復興した企業経営者等の経験談などを聞き、災害時の応急対応、被災地の復興さらには今後の災害への備えについて考えるため、下記のとおりシンポジウムを開催します。

なお、このシンポジウムは、「大学コンソーシアムひょうご神戸」設立5周年記念事業の加盟大学による震災復興シリーズ講演会にも位置づけています。

<開催趣旨>

2011年3月11日に東北・関東地方で観測史上最大の地震と津波が発生し、東北沿岸部を中心に甚大な被害をもたらしました。被災地では、これまで経験したことのない、甚大で広域的な災害発生から復興への長い道のりを一歩ずつ進んで行くこととなります。このような大災害をまのあたりにし、私たちはどのように備え、立ち向かい、そしてその被害から立ち上がり復興していくべきなのでしょうか？

兵庫県は、今から約16年前に阪神・淡路大震災を経験し、本格的な「ボランティア」のきっかけとなった地域です。そこに立地する兵庫県立大学では、東日本大震災の被災地の復旧・復興を支援するため、「兵庫県立大学東日本大震災支援本部」を設置しました。

支援本部では、被災地支援の取り組みの一つとして、学生ボランティアを派遣することとし、学生のボランティア登録を募り、ひょうごボランタリープラザ・公立大学法人宮城大学と協働して、5月20日～5月23日、7月1日～7月4日、9月12日～9月15日の3回、宮城県石巻市及び南三陸町において復興支援のボランティア活動を行いました。

多くの学生ボランティアにとっては、初めて経験する被災地における支援活動でした。被災地・被災者の早期復興の一翼を担うだけでなく、現場に身を置き、災害がもたらす脅威を肌で感じながら多くのことを考えました。「もし自分たちが被災していたら、どのような思いをもっただろうか」と被災者の立場になり考え、そして「何をすることで自分たちは被災地や被災者の役に立てるだろうか？」という悩みや迷いなどを学生間で共有し、また議論することができるようになりました。

さらに、防災対策の基本は、自分の責任で自分自身が行う「自助」ですが、大きな被害の場合には、国や自治体による被災者の早期生活再建の支援である「公助」が必要となります。また、これに加えて、ボランティア活動などにより、被災地内外の人と被災者とが共に働く「共助」も大変重要な役割を担っています。今回の震災の場合、特にこの「公助」と「共助」の部分が大変重要な役割を果たしています。

本シンポジウムは、①学生が、ボランティア活動を通して感じ、考えた「自助」と「共助」および被災経験を有する自治体職員が行った東日本大震災等の被災地と被災者の早期復興に向けた「公助」について議論し共有すること、また、②阪神・淡路大震災を経験し、そこから乗り越え復興した方の経験談をうかがうことで、災害時の応急対応、被災地の復興さらには今後の災害への備えについて考えることを目的としています。

記

1 主催

兵庫県立大学東日本大震災支援本部、公立大学法人宮城大学

2 共催

大学コンソーシアムひょうご神戸、ひょうごボランタリープラザ

3 日時及び場所

平成23年10月29日（土） 13:00～17:00 兵庫県立大学防災教育センター

平成23年10月30日（日） 9:30～12:00 兵庫県自治研修所

プログラム

<1日目：10月29日（土）13：00～17：00>

〔会 場〕「兵庫県立大学防災教育センター」大教室

（神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 「人と防災未来センター」東館4階）

〔テーマ〕 ボランティア活動と震災復興支援－自助・公助・共助を考える－

【開会】

兵庫県立大学：岡本久之副学長

【第Ⅰセッション】 学生ボランティア活動で感じ、考えたこと（自助、共助）

- ・宮城大学の学生ボランティア活動について（三橋勇教授、学生）
- ・兵庫県立大学の学生ボランティア活動について（岡本久之副学長、学生）



【特別講演】

- ・「東日本大震災における相馬市の被害状況と復興の今」

（相馬市情報政策課：只野聡一氏）

【第Ⅱセッション】

被災経験を有する自治体実務者からみた東日本大震災の災害対応（公助）

- ・「能登半島地震における被災者の生活再建支援を経験して見えること」

（輪島市観光課：倉本啓之氏）

- ・「東日本大震災に対する兵庫県の支援について」

（兵庫県防災企画課：小山達也氏）

【第Ⅲセッション】 「自助」、「公助」、「共助」について皆で考える

第Ⅰセッション参加者から第Ⅱセッション参加者への質問形式で、様々なテーマについて議論を進め、セミナー全体のまとめを行う。

【閉会】

宮城大学：弦本英一副学長

〔交流会〕

17時30分～19時30分 「兵庫県立大学防災教育センター」大教室

<2日目：10月30日（日）9：30～12：00>

〔会 場〕兵庫県自治研修所（神戸市垂水区塩屋町5-3-1）

〔テーマ〕 阪神・淡路大震災からの復興（被災経験者を囲む）

阪神・淡路大震災を経験し、復興した方々の経験を伺う。

- | | | |
|-----------|-----------|----------------|
| ・コーディネーター | 西井進剛准教授 | 兵庫県立大学 |
| ・パネリスト | 岸 徹氏 | (株) トライス代表取締役 |
| | 山中 勸氏 | (株) 伍魚福代表取締役社長 |
| | 山本あい子教授 | 兵庫県立大学 |
| | 三橋 勇教授 | 宮城大学 |
| | 佐々木久美子准教授 | 宮城大学 |
| | 折笠貴寛助教 | 宮城大学 |

兵庫県立大学・宮城大学合同シンポジウム
 《 震災復興を考える ～阪神・淡路大震災と東日本大震災～ 》
 (「大学コンソーシアムひょうご神戸」シリーズ講演会)

参 加 申 込 書

	・教職員 所属部局名 ・学生 学部名 (学年)	参加希望欄に○を記入してください			
		シンポジウム		交流会 10/29	宿泊 10/29
		10/29	10/30		

※ 交流会に参加される場合は、参加費として、教職員：5,000円、学生：2,000円を当日徴収します。

※ 兵庫県自治研修所での宿泊を希望される場合は、リネン代(664円)を当日徴収します。

○ 申込先

兵庫県立大学事務局学務部学務企画課 (荒木、大島)

住 所：神戸市西区学園西町8-2-1

TEL：078-794-6647

FAX：078-794-5575

電子メール：Hideo_Oohata01@pref.hyogo.lg.jp

数字の「0 (ゼロ)」

大文字の「0 (おー)」

○ 申込期限

平成23年10月24日 (月)